

対象校No. 527

注4

学校コード F11310103386

注3

設置年度 令和 8年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

届出

注2

二松学舎大学大学院 文学研究科 歴史文化学専攻

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正後大学設置基準適用)

学校法人二松学舎
令和8年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 大学改革・IR推進課

職名・氏名 カチョウ オザワ ヒロユキ
課長・小沢 洋之

電話番号 03-3261-1285

(夜間) 同上

e-mail gakumu@nishogakusha-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(令和◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・「〇〇短期大学 △△学科」
- ・「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程)」
- ・「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和8年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、

該当番号を記載してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人二松学舎

(2) 大学名

二松学舎大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

<九段キャンパス>

〒102-8336

東京都千代田区三番町6-16

<柏キャンパス>

〒277-8585

千葉県柏市大井2590

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ミ ヒデノリ) 水戸 英則 (平成23年9月)		
学長	(サウ スム) 佐藤 晋 (令和6年4月)		
研究科長	(ヤマガチ タカヨシ) 山口 直孝 (令和6年4月)		
専攻長	(ノムラ ケイスケ) 野村 啓介 (令和8年4月)		

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を

()書きで記入してください。

(例) 令和7年度に報告する内容 → (7)

令和8年度に報告する内容 → (8)

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。

・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和8年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
文学研究科 歴史文化学専攻 修士 (歴史文化学)	文学関係	2 年	8 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	16 人	-	

- (注) 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）又は（その2の2））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	8 (-) [-]	-	0.12 倍	-	
志願者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [1]	春季入学以外の 入学時期と 入学定員内訳			
受験者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [1]				
合格者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	1 (-) [0]				
B 入学者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	1 (-) [0]				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.12				

- (注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 - ・（ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・転入学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出して下さい。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳（予定を含む）を記載してください。（春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。）
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和9年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」JAC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	1 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
3年次					- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
4年次							- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
計	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	1 [-] (-)	- [-] (-)	

- (注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和3年度	人	人	令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
令和6年度	人	人	令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
令和7年度	人	人	令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
			令和7年度	人	人	
令和8年度	1人	0人	令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
			令和7年度	人	人	
			令和8年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「修学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和8年度】

$$\frac{\text{令和8年度の退学者数(a)}}{\text{令和8年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{1} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<文学研究科 歴史文化学専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			基幹教員等の配置					(助手を除く) 外の教員
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
日本歴史文化学講座(講義科目)	日本歴史文化学講義Ⅰ	1・2前		2		1						
	日本歴史文化学講義Ⅱ	1・2後		2		1						
	日本歴史文化学講義Ⅲ	1・2前		2				1				
	日本歴史文化学講義Ⅳ	1・2後		2				1				
	日本歴史文化学講義Ⅴ	1・2前		2			1					
	日本歴史文化学講義Ⅵ	1・2後		2			1					
	小計(6科目)			0	12	0	1	1	1	0	0	0
日本歴史文化学講座(演習科目)	日本歴史文化学演習Ⅰ	1・2前		2		1						
	日本歴史文化学演習Ⅱ	1・2後		2		1						
	日本歴史文化学演習Ⅲ	1・2前		2				1				
	日本歴史文化学演習Ⅳ	1・2後		2				1				
	日本歴史文化学演習Ⅴ	1・2前		2			1					
	日本歴史文化学演習Ⅵ	1・2後		2			1					
	小計(6科目)			0	12	0	1	1	1	0	0	0
東アジア歴史文化学講座(講義科目)	東アジア歴史文化学講義Ⅰ	1・2前		2			1					
	東アジア歴史文化学講義Ⅱ	1・2後		2			1					
	東アジア歴史文化学講義Ⅲ	1・2前		2		1						
	東アジア歴史文化学講義Ⅳ	1・2後		2		1						
	小計(4科目)			0	8	0	1	1	0	0	0	0
東アジア歴史文化学講座(演習科目)	東アジア歴史文化学演習Ⅰ	1・2前		2			1					
	東アジア歴史文化学演習Ⅱ	1・2後		2			1					
	東アジア歴史文化学演習Ⅲ	1・2前		2		1						
	東アジア歴史文化学演習Ⅳ	1・2後		2		1						
	小計(4科目)			0	8	0	1	1	0	0	0	0
西洋歴史文化学講座(講義科目)	西洋歴史文化学講義Ⅰ	1・2前		2		1						
	西洋歴史文化学講義Ⅱ	1・2後		2		1						
	西洋歴史文化学講義Ⅲ	1・2前		2		1						
	西洋歴史文化学講義Ⅳ	1・2後		2		1						
	小計(4科目)			0	8	0	1	0	0	0	0	0
西洋歴史文化学講座(演習科目)	西洋歴史文化学演習Ⅰ	1・2前		2		1						
	西洋歴史文化学演習Ⅱ	1・2後		2		1						
	西洋歴史文化学演習Ⅲ	1・2前		2		1						
	西洋歴史文化学演習Ⅳ	1・2後		2		1						
	小計(4科目)			0	8	0	1	0	0	0	0	0
総合文化学講座(講義科目)	日本文化史特殊講義Ⅰ	1・2前		2				1				
	日本文化史特殊講義Ⅱ	1・2後		2				1				
	日本芸術芸能史講義ⅠA	1・2前		2		1						
	日本芸術芸能史講義ⅠB	1・2後		2		1						
	日本芸術芸能史講義ⅡA	1・2前		2		1						
	日本芸術芸能史講義ⅡB	1・2後		2		1						
	日本芸能史講義Ⅰ	1・2前		2		1						
	日本芸能史講義Ⅱ	1・2後		2		1						
	古文書学講義ⅠA	1・2前		2							1	
	古文書学講義ⅠB	1・2後		2							1	
	古文書学講義ⅡA	1・2前		2							1	
	古文書学講義ⅡB	1・2後		2							1	
	日本史料学講義Ⅰ	1・2前		2							1	
	日本史料学講義Ⅱ	1・2後		2							1	
	中国思想講義①A	1・2前		2							1	
	中国思想講義①B	1・2後		2							1	
	中国思想講義②A	1・2前		2							1	
	中国思想講義②B	1・2後		2							1	
小計(18科目)			0	36	0	1	0	1	0	0	2	

【令和8年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			基幹教員等の配置					(助手を除く) 外の教員
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
日本歴史文化学講座(講義科目)	日本歴史文化学講義Ⅰ(未開講)	1・2前		2		1						
	日本歴史文化学講義Ⅱ(未開講)	1・2後		2		1						
	日本歴史文化学講義Ⅲ	1・2前		2				1				
	日本歴史文化学講義Ⅳ	1・2後		2				1				
	日本歴史文化学講義Ⅴ(未開講)	1・2前		2			1					
	日本歴史文化学講義Ⅵ(未開講)	1・2後		2			1					
	小計(6科目)			0	12	0	1	1	1	0	0	0
日本歴史文化学講座(演習科目)	日本歴史文化学演習Ⅰ	1・2前		2		1						
	日本歴史文化学演習Ⅱ	1・2後		2		1						
	日本歴史文化学演習Ⅲ	1・2前		2				1				
	日本歴史文化学演習Ⅳ(未開講)	1・2後		2				1				
	日本歴史文化学演習Ⅴ	1・2前		2			1					
	日本歴史文化学演習Ⅵ(未開講)	1・2後		2			1					
	小計(6科目)			0	12	0	1	1	1	0	0	0
東アジア歴史文化学講座(講義科目)	東アジア歴史文化学講義Ⅰ	1・2前		2			1					
	東アジア歴史文化学講義Ⅱ	1・2後		2			1					
	東アジア歴史文化学講義Ⅲ(未開講)	1・2前		2		1						
	東アジア歴史文化学講義Ⅳ(未開講)	1・2後		2		1						
	小計(4科目)			0	8	0	1	1	0	0	0	0
東アジア歴史文化学講座(演習科目)	東アジア歴史文化学演習Ⅰ	1・2前		2			1					
	東アジア歴史文化学演習Ⅱ	1・2後		2			1					
	東アジア歴史文化学演習Ⅲ	1・2前		2		1						
	東アジア歴史文化学演習Ⅳ	1・2後		2		1						
	小計(4科目)			0	8	0	1	1	0	0	0	0
西洋歴史文化学講座(講義科目)	西洋歴史文化学講義Ⅰ	1・2前		2		1						
	西洋歴史文化学講義Ⅱ	1・2後		2		1						
	西洋歴史文化学講義Ⅲ(未開講)	1・2前		2		1						
	西洋歴史文化学講義Ⅳ(未開講)	1・2後		2		1						
	小計(4科目)			0	8	0	1	0	0	0	0	0
西洋歴史文化学講座(演習科目)	西洋歴史文化学演習Ⅰ	1・2前		2		1						
	西洋歴史文化学演習Ⅱ	1・2後		2		1						
	西洋歴史文化学演習Ⅲ(未開講)	1・2前		2		1						
	西洋歴史文化学演習Ⅳ(未開講)	1・2後		2		1						
	小計(4科目)			0	8	0	1	0	0	0	0	0
総合文化学講座(講義科目)	日本文化史特殊講義Ⅰ	1・2前		2					1			
	日本文化史特殊講義Ⅱ	1・2後		2					1			
	日本芸術芸能史講義ⅠA	1・2前		2		1						
	日本芸術芸能史講義ⅠB	1・2後		2		1						
	日本芸術芸能史講義ⅡA(未開講)	1・2前		2		1						
	日本芸術芸能史講義ⅡB(未開講)	1・2後		2		1						
	日本芸能史講義Ⅰ	1・2前		2		1						
	日本芸能史講義Ⅱ	1・2後		2		1						
	古文書学講義ⅠA	1・2前		2							1	
	古文書学講義ⅠB	1・2後		2							1	
	古文書学講義ⅡA(未開講)	1・2前		2							1	
	古文書学講義ⅡB(未開講)	1・2後		2							1	
	日本史料学講義Ⅰ	1・2前		2							1	
	日本史料学講義Ⅱ(未開講)	1・2後		2							1	
	中国思想講義①A(未開講)	1・2前		2							1	
	中国思想講義①B(未開講)	1・2後		2							1	
	中国思想講義②A(未開講)	1・2前		2							1	
	中国思想講義②B(未開講)	1・2後		2							1	
小計(18科目)			0	36	0	1	0	1	0	0	2	

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	64 科目	0 科目	64 科目	0 科目 [0]	64 科目 [0]	0 科目 [0]	64 科目 [0]	

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	日本歴史文化学講義Ⅴ	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
2	日本歴史文化学講義Ⅵ	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
3	日本歴史文化学演習Ⅵ	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
4	東アジア歴史文化学講義Ⅲ	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
5	東アジア歴史文化学講義Ⅳ	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
6	西洋歴史文化学講義Ⅲ	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
7	西洋歴史文化学講義Ⅳ	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
8	西洋歴史文化学演習Ⅲ	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
9	西洋歴史文化学演習Ⅳ	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
10	日本芸術芸能史講義ⅡA	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
11	日本芸術芸能史講義ⅡB	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
12	古文書学講義ⅡA	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
13	古文書学講義ⅡB	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
14	日本史料学講義Ⅱ	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
15	中国思想講義①A	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
16	中国思想講義①B	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
17	日本芸術芸能史演習ⅡA	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
18	日本芸術芸能史演習ⅡB	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
19	古文書学演習ⅡA	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
20	古文書学演習ⅡB	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
21	日本史料学演習Ⅱ	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
22	中国思想演習①A	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定
23	中国思想演習①B	2	1・2		選択	隔年開講としているため次年度開講予定

- (注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「(3) 未開講科目」に記載した科目はすべて隔年開講の設定であるため来年度開講する。来年度開講科目を掲載した時間割は極力早い時期に学生に周知する。

- (注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{64} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	(共用) 附属高等学校、附属柏中学・高等学校(収容定員) 900名、1,146名(借用面積・期間) 2,733㎡、2年間		
	校舎敷地	3,801.47㎡	123,482㎡	0㎡	127,283.47㎡			
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡			
	合 計	3,801.47㎡	123,482㎡	0㎡	127,283.47㎡			
(2) 校 舎	専 用	41,810.91㎡	0㎡	0㎡	41,810.91㎡			
	(41,810.91㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(41,810.91㎡)			
(3) 講義室等・新設研究科等の専任教員研究室	講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の専任教員研究室				
	52室	2室	45室	7室				
(4) 図書・設備	新設研究科等の名称	図 書		学術雑誌		機械・器具	標本	
		[うち外国書]	電子図書	[うち外国書]	電子ジャーナル			
	文学研究科 歴史文化学専攻	冊	[うち外国書]	種	[うち外国書]	点	点	年度購入計画に従って購入(8)
		77 [9] (46 37 [6 5])	24 [0] (19 12 [0 0])	0 [0] (0 [0 0])	0 [0] (0 [0 0])	0 (0)	0 (0)	
計	77 [9] (46 37 [6 5])	24 [0] (19 12 [0 0])	0 [0] (0 [0 0])	0 [0] (0 [0 0])	0 (0)	0 (0)		
(5) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	500千円	500千円	図書購入費	510千円	250千円	250千円
		共同研究費等	750千円	750千円	設備購入費	0千円	0千円	0千円
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		870千円	620千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金、私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等						

- (注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の2)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・「(4)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(8)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・校舎等建物の計画の変更(校舎の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・国立大学については「(5)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	二松学舎大学							収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	4
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
文学部	4	440	3年次30	1820	-	1.15	1.12	-	昭和24	-	
国文学科	4	240	0	960	学士(文学)	1.22	1.19	-	昭和24	東京都千代田区三番町6-16	
国際日本・中国学科	4	90	0	360	学士(文学)	1.06	1.03	-	昭和24	同上	
都市文化デザイン学科	4	50	3年次30	260	学士(文学)	0.94	-	-	平成29	同上	
歴史文化学科	4	60	0	240	学士(文学)	1.20	1.17	令和4	令和4	同上	
国際政治経済学部	4	240	0	960	-	1.18	1.15	-	平成3	-	
国際政治経済学科	4	160	0	640	学士(国際政治経済学)	1.15	1.11	-	平成3	千葉県柏市大井2590	
国際経営学科	4	80	0	320	学士(経営学)	1.25	1.22	-	平成30	同上	
大学全体	4	680	3年次30	2780	-	-	-	-	-	-	

(注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)

なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。

・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「入学定員超過率」及び「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。

・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。

※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。

履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。

・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。

開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。

算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和9年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。

・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。

なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。

また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。

・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。

詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和7年)	文学部国文学科の収容定員超過の是正に努めること。 【届出】 遵守事項	入学者選抜の適切な実施や入学予定者動向の予測精度向上を図り、収容定員の改善に努めた。(8)	履行中 令和8年度入学定員超過率は前年度に比べ0.03倍、収容定員超過率は0.01倍改善している。今後も引き続き足許の入学者動向の予測精度向上に一層努め、収容定員超過の改善に務める方針。(8)
	文学部歴史文化学科の収容定員超過の是正に努めること。 【届出】 遵守事項	入学者選抜の適切な実施や入学予定者動向の予測精度向上を図り、収容定員の改善に努めた。(8)	履行中 令和8年度収容定員超過率は前年度に比べ0.04倍改善している。今後も引き続き足許の入学者動向の予測精度向上に一層努め、収容定員超過の改善に務める方針。(8)
	国際政治経済学部国際政治経済学科の収容定員超過の是正に努めること。 【届出】 遵守事項	入学者選抜の適切な実施や入学予定者動向の予測精度向上を図り、収容定員の改善に努めた。(8)	履行中 令和8年度入学定員超過率は前年度に比べ0.05倍改善している。今後も引き続き足許の入学者動向の予測精度向上に一層努め、収容定員超過の改善に務める方針。(8)
	国際政治経済学部国際経営学科の収容定員超過の是正に努めること。 【届出】 遵守事項	入学者選抜の適切な実施や入学予定者動向の予測精度向上を図り、収容定員の改善に努めた。(8)	履行中 令和8年度入学定員超過率は前年度に比べ0.25倍、収容定員超過率は0.02倍改善している。今後も引き続き足許の入学者動向の予測精度向上に一層努め、収容定員超過の改善に務める方針。(8)

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおり記載してください。

【令和7年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和7年度報告書の記載内容を転記し文末に「(7)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(8)」と記載してください。

【令和7年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和7年度報告書の記載内容を転記し文末に「(7) (8)」と記載してください。

【令和8年度から新たに調査対象となった学科等又は令和7年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(8)」と記載してください。

- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。

- ・「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<文学研究科 歴史文化学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、大学院設置基準第九条の三第2項の規定に基づき、自己点検・評価実施委員会がFD活動の企画・立案及び実施を行っている。自己点検・評価実施委員会は、副学長（議長）1名、学部・研究科から選出された教員6名及び事務職員1名によって構成され、各学部・研究科と緊密な連携を取りつつ、最新の教育情報を取り入れたFD活動を実施している。

また別に、事務職員も含めたSD活動を行うため「SD委員会」を設置している。SD委員会は、理事長が委嘱する教職員（教員2名・職員9名）が委員となり、総務担当常任理事が委員長となる。SD委員会は研修等に関する計画を年度ごとに策定し、計画的にSD活動を実施している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和7年度の自己点検・評価実施委員会は8回開催した（教員の参加率は100%）。FD研修会等の企画・実施をはじめ授業公開（相互授業参観）や授業改善のための各種学生アンケートを計画・実施している。FD研修会については、令和7年度に3回実施した。

令和7年度のSD委員会は2回開催した（各回とも教員の参加率は100%）。職階による階層別の研修に加え教員・職員が共に参加するSD講演会を1回（オンデマンド形式）実施し、教職協働の意義付けと意識の向上を図るSD活動に取り組んだ。

c 委員会の審議事項等

自己点検・評価実施委員会では、本学規程に基づき、次の事項を企画・検討し、学長が行う全学的な意思決定のもとに諸施策を実行している。

- (1) 自己点検・評価の実施計画の策定、その実施及び調整
- (2) 自己点検・評価に関する資料収集及び啓発活動等
- (3) 自己点検・評価項目について、各個別項目点検委員会から提出された報告書の集約及び全体の報告書の作成
- (4) FD活動の企画・立案及び実施
- (5) FD活動に関する情報収集及び啓発
- (6) 授業アンケート及び大学の諸制度等に関するアンケート等の実施とFD活動への活用
- (7) 学部・研究科等のFD活動のサポート
- (8) その他必要と認められた事項

S D委員会では、本学校法人規程に基づき、次の事項を企画・検討するとともに、諸施策を実行している。

- (1)学校法人二松学舎全体のS D計画の統括・管理
- (2)研修の年次計画・プログラムの検討及び実施に関する事項
- (3)外部研修受講者、外部機関への派遣者の選考
- (4)研修報告会の実施
- (5)第9条による補助対象者の審査・決定
- (6)その他S Dに関する事項

② 実施状況

a 実施内容

自己点検・評価実施委員会及びS D委員会が令和7年度において行った主な施策は次のとおりである。文学研究科歴史文化専攻に所属する教員についても、こうした「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」を行う組織に加わり、同様の活動が展開されることとしている。

- ・ 学生による授業アンケートと集計結果の教員（非常勤を含む）還元及びコメントシート分析
- ・ 学生満足度調査の実施と分析結果及び提案事項の聴取・検証
- ・ F D活動の企画・実施及びフォローアップ、促進
- ・ 情報公開（F Dニュースレター及びニュースI Rの発行等）
- ・ 教職員向けS D講演会「教育と経営に関する研修会」の開催
- ・ S Dニュースの配信

b 実施方法

<授業改善のためのアンケート>

一部科目を除く全授業科目（学部・院）について、「学生による授業アンケート」を春学期・秋学期それぞれ実施している。回答内容については、授業ごとに個別に集計・集約のうえ担当教員（専任・非常勤）に配付している。同時に、担当教員には、当該アンケート結果を受けた所感と改善に向けての取組みを記したコメントシートの提出を求め、学生のアンケート結果や声と向き合う機会を設けている。担当教員の所感や改善に向けての取組みについては、自己点検・評価実施委員会での点検・検証や大学運営会議での検討に付し、授業改善への組織的な取組みに繋げている。

<F D活動の企画・実行・推進>

令和7年度は、自己点検・評価実施委員会によるF D講演会を3回実施した。

<情報公開>

本学のF D活動やその成果について、広く学内外への周知を目的として、「F Dニュースレター」と「ニュースI R」を発行している。両発行物は春・秋の各学期に作成し、ホームページに掲載するとともに、教職員には学内メールで、学生には学修サポートシステムを通じて周知している。特に「ニュースI R」については、学生の実態満足度調査結果の分析及び同調査において収集した学生の要望等について、自己点検・評価実施委員会並びに大学運営会議における点検・検証を経て実現した改善事項を紹介し、大学における自己点検・改善への取組みを周知することに重点を置いている。

<教職員向けS D講演会「教育と経営に関する研修会」の開催>

令和7年度もS D委員会が、教職員が共に参加するS D講演会「教育と経営に関する研修会」を計画・実施し、教職協働の更なる意義浸透を図るとともに、意識を高めた。

<S Dニュースの配信>

教育関係の基本的な知識及び情報の共有を図るため、大学改革等に係る時事ニュースを学内メールで全教職員に配信し、最新の教育関連情報の周知を行った。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

自己点検・評価実施委員会及びS D委員会における活動状況は上述の①実施体制 b委員会の開催状況の通りでありその具体的内容は②実施状況 b実施方法の通りである。

F D講演会及びS D講演会の実施状況と参加状況は次のとおりである。

<自己点検評価実施委員会によるFD講演会>

令和7年度中3回開催 延参加人数：194名（教員166名、職員28名）

<SD委員会によるSD講演会>

令和7年度中1回開催（オンデマンド形式） 延参加人数：168名（教員73名、職員95名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

実施結果をふまえて実施された施策は次のとおりである。

- 1) 「学生による授業アンケート」結果を受けた授業担当教員の所感及び改善に向けての取組みを記したコメントシートに記載された内容について、他の教員に情報共有することで授業改善が見込まれる事例について、学内で情報共有。
- 2) FD活動を通じて教育環境の変化や課題の周知、実践事例の共有と普及・促進、教育に関する理論の共有。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・毎年度、各学期終盤に実施（年2回、「学生による授業アンケート」）
- ・原則、各学期の13週目（WEB形式）

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・学生から寄せられた選択回答及び自由記述については、個別授業ごとに集計・集約のうえ担当教員（専任・非常勤）に配付。
- ・各学部・学科ごとの集計結果を二松学舎大学年報で報告。学生にはアンケート結果を図書館で閲覧できるようにしている。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

文学研究科修士課程歴史文化学専攻は、日本史・東アジア史・西洋史・思想文化史の研究を基軸に、国内外の歴史資料・文化遺産の多角的分析を通して、社会の発展と課題解決に寄与する人材を育成し、高度な専門的学識を有する教員・職業人を養成するとともに、次世代の文化の担い手として、広く国際的視野と深い洞察力を持ち、歴史文化研究の新たな展開を切り拓く人材を輩出する目的で設置された。

令和8年度入試においては、事前に同専攻の基礎となる文学部3年、4年次生に対して行った同専攻への進学意向の調査では、入学定員以上の学生が進学を希望していたのに対し、実際の入学者数は1名に留まった。今年度は既設学部からの進学ガイダンスの実施や、歴史文化学専攻のパンフレット、大学ウェブサイト等を用いた広報活動を充実させ、高度な研究意欲を持つ志願者の確保に努めていく。

令和8年度においては、1年次の教育課程として、日本・東アジアおよび西洋の歴史や思想文化に関する専門的な講義・演習科目を配当したカリキュラムが実施される。当該専攻に所属する院生は、修士論文の執筆を念頭に独自に課題設定を行い、これら授業科目を履修しつつ研究指導を受け、論理的な手続きに則して創見を提示できる能力を身につけるべく日々研究に励んでいる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和10年4月公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和9年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審予定

(注)・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和8年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 [()]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。